

＜今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 9 章 24-27 節＞

①一見、分かりやすい競争の例え話。しかし注意が必要。

パウロはしばしば競争や戦いを例に挙げて教えています。信仰の競争、キリストのための戦いです（IIテモテ 2:3 以下）。しかし、言いたいことは何かを取り違えてはなりません。例え話の難しい点です。

②一等賞を得るのは一人ではない信仰の競争！

この例えでは一等賞を得るのは一人だけだという点が強調されています。しかし、信仰の競争の勝利者は一人だけでなく、キリストに従って歩んだおびただしい先達がいるのであり（ヘブライ 12:1 以下）、その群れに加わる努力をする競争です。パウロも、信仰は人と比べるより以前の自分自身との競争として述べています（フィリピ 3:12 以下）。

③信仰における「節制」と「体の鍛錬」とは？ これも注意が必要。

また、「節制し」（25）「体を打ちたたく」（27）のはスポーツ選手なら自分の体を鍛えて勝利するためですが、信仰の場合は何を指すのでしょうか？ 今スポーツ界では、勝利し頂点に立とうとする熱心さがいろいろな問題を生んでいます。スポーツの世界でさえ、勝利第一主義とそのための過剰な熱心さが問題となっているのです。信仰においてはどうか？ パウロは、愛がなければ全ての熱心さは空しいことを教えています（コリント I 13:1 以下）。その理由は、コリントの教会に知識はあるが愛に欠ける人たちがいたからです（コリント 8:1 以下）。

④福音を知らされた者らしい伝道と教会形成に取り組もう！

パウロがこの例え話で一番言いたいことは何でしょうか？ やはり福音の宣教に熱心に取り組むことです(27)。しかし、パウロは、そこに愛はあるか、とコリント書全体で問うています。パウロは、知識とある種の宗教体験を持っていると誇る人たちに対して、あくまで自分の弱さ（つまり主が十字架につかれた事実）を誇りました（コリント II 12:5）。この主の十字架の恵みを語る宣教を為し、この恵みを知らされた者たちからなる愛と赦しに満ちた教会を形成していくこと、それが「やみくもに走る」のではなく「空を打たない拳闘」の内容です(9:26)！